

緑化フェア「みどりの広場」プラン部門の作庭予定地の概要

《作庭(施工)予定地》

第38回 全国都市緑化くまもとフェア

水辺エリア：「水前寺江津湖公園一帯」（水前寺地区～広木地区、動植物園含む）

《会場コンセプト》

『水の恵みを楽しむ豊かな緑とそこに暮らす生き物の楽園への招待』

《水前寺江津湖公園一帯の変遷》

- 江戸時代初期、加藤清正が築いたとされる江津塘は、上江津から加勢川右岸沿いに続く堤防であり、これにより、豊富な湧水を源として多くの生物を育てている江津湖が形成。
- 熊本藩初代藩主・細川忠利が1636年（寛永13年）頃から築いたとされる「水前寺御茶屋」が始まりの「成趣園」（昭和4年に「水前寺成趣園」として、国の名勝・史跡として指定）や、阿蘇伏流水の湧水を利用した旧砂取細川邸庭園（旧江津花壇）等、歴史・文化の面でも江津湖の水辺の良好な景観が有効に活用されてきた。
- 古くから市民にとって生活の場、憩いの場として身近な存在であった江津湖は、明治時代には第五高等学校によるボートレースが開催されたり、大正期や戦前期には水泳や舟遊びなどで利用されたりするなど、良好な風景や環境を利用した余暇地であった。

《動植物園》

- 1929年（昭和4年）、水前寺成趣園の東側一角に、当時は西日本有数の規模を誇る「熊本動物園」が開園。その後、太平洋戦争における閉園・再開を経て、1969年（昭和44年）に現在の位置に「水辺動物園」として移転。
- 1984年（昭和59年）に「都市緑化植物園」の施設整備に着手し、1986年（昭和61年）に開催した“第4回全国都市緑化熊本フェア（グリーンピック'86）”のメイン会場として使用。1991年（平成3年）には動物園と都市緑化植物園が一体化して「熊本市動植物園」となる。

《現在の状況》

- 江津湖は、自然環境が豊かで市民の憩いの場として親しまれている場所ではありますが、長期的な湧水量の減少や外来生物の増加など、以前より自然環境が悪化していることから、その回復に向け、市民・事業者・行政が協働して環境保全に取り組んでいます。
- 動植物園は、先の熊本地震において甚大な被害を受け、一時閉園せざるを得ない状況となりました。復旧作業は進んで全面開園を迎え、今後も市民が楽しめる憩いの場として魅力の発信に努めていきます。

《基本的な考え方》

- まちなかにありながら、熊本の水の恵みを象徴する水辺景観と水辺環境を有する水前寺江津湖公園と動植物園を舞台に、水と緑を実感・体感する会場を目指します。
- 自然のオアシスでの学び、遊び、体験を通して、自然環境への関心や意識向上を図ります。
- フェアを機にリニューアルを予定している植物園エリアで、上質な生活都市に相応しい、熊本の新たな緑の発信拠点づくりを進めていきます。

《展開イメージ》

- 江津湖の湧水で育まれた自然豊かな生態系（生物多様性）に関連する団体やくまもと水守等による環境学習プログラムの展開
- 植物や園芸を身近に体験・体感するとともに、魅力や話題性のある草花や植物等の展開
- 植物ゾーンと動物ゾーンを一体的に捉えたきめ細かいランドスケープの展開
- 暮らしのシーンを切り取り、花や緑の技術を駆使した多彩なガーデンショーの展開
- 水前寺成趣園から広がる歴史・文化の発信と江津湖全域での回遊性の向上に資する展開
- 自然と人との共存・共生、生物多様性の保全、自然豊かな景観美を考える契機となるコンテンツの展開



＜植物ゾーンのリニューアルイメージ＞

全国都市緑化くまもとフェアの会期は2022年です。作庭(施工)予定会場は現在設計中になりますので、ホームページを参考にして下さい。

- 第38回 全国都市緑化くまもとフェア【開催概要】

https://urbangreen.or.jp/info-event/ryokukafair/38kai_greenfair-kaisaigaiyou

- 熊本市 公園課 全国都市緑化フェア推進室

https://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=5&class_set_id=3&class_id=3047